

## 【認知症カフェ】

### ★取組みについて

認知症の方やその家族、地域住民等が集い介護の悩みなどを語り合う場を提供。

---

### ★取組みを行って

もともとあった地域向けカフェを、帯広市の認定を受け認知症カフェとして登録した。スタート時より認知症カフェとして大々的には謳わず、地域住民の沙龙的な側面もある。運営には職員の負担もあるが、賛同してくれるボランティアの方も増え、入居者の方も手伝ってくれる、地域と入居者との交流の場、など嬉しい一面もある。

### 【認知症カフェ「ともいきカフェ」の開催】

#### ★取組みについて

地域の高齢化の進行に伴う認知症高齢者の増加、住民同士の交流関係の希薄化を踏まえ、認知症の方やその家族、認知症に関心のある地域の方々を対象に、認知症について正しい理解をして頂き、特別な病気ではないことを知ってもらうことを目的に開催することとしました。場所は慈啓会特別養護老人ホームの会議室を利用し、年間4回、13時30～15時45分に開催しております。

法人内の医療・福祉の専門職員や外部講師によるミニ講座、リハビリ職員による介護予防体操とカフェタイム（フリースタイル）を組み合わせて実施しています。参加費は1回100円（フリースタイル・お菓子付き）です。

また、運営面ではボランティアを募集し会場設営や接客、資料配布、後片付けなどの協力を頂いています。

#### ★取組みを行って

平成28年10月の開催以来、札幌市の認証を受けた認知症カフェとして運営を継続しております。参加者は平均すると12～13人程度、今はまだ認知症の方や家族の参加が少ないため、広く地域住民の方々に認知症について理解して頂き、特別な病気ではないことを知ってもらうための活動が中心です。いずれは認知症の方やその家族が、孤立せずに社会とつながる場、専門職と気軽に関わりを持ち、治療や介護サービス等の支援に繋がるきっかけとなるようにカフェを育てていきたいと考えております。

運営面では少しでも多くの住民に興味を持ってもらえるように、プログラムにミニ講座や介護予防体操、カフェタイムなどを取り入れております。また、住民に参加するだけでなく、ボランティアとしてカフェそのものの運営に関わっていただくことで支え手を養成することにも取り組んでいるところです。



### 【認知症カフェ】

#### ★取組みについて

札幌市では、認知症の人と家族が地域で孤立することを防ぐとともに、認知症についての地域住民の理解の促進、認知症の人と家族を支える地域づくりを行うことを目的として「札幌市認知症カフェ認証事業」を実施している。

当法人では、この事業に積極的に参画することとし、高齢者総合福祉施設サン・グレイス及び特別養護老人ホームアビターレアネックスにおいて、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまちづくりの一貫として、地域の共生をサポートする「オレンジ・カフェ」を開催しています。

認知症の方にとっては、自ら活動を行ない楽しめる場、ご家族には、わかり合える人との出会いの場、地域の皆様には、認知症の理解を深め、住民同士が交流する場を提供しています。

#### ★取組みを行って

- 1 通所や入所している認知症高齢者の方が、役割を持って事業に参加することができている。
- 2 オレンジカフェの中で「認知症サポーター養成事業」を実施し、オレンジリングの普及啓発に努めることができた。
- 3 特別養護老人ホームが、地域の人々に地域福祉の拠点として理解され、ボランティアとして特別養護老人ホームの運営にも協力を得られるようになっている。



## 【認知症カフェ】

### ★取組みについて

この取り組みは、札幌市の認知症カフェ認証事業にある「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき集う場」としての、認知症カフェです。テーマを決めて、講話をメインとし脳トレや創作等を行っています。

### ★取組みを行って

当園内にある札幌市東区介護予防センター北光が東区第 1 地域包括支援センターと共催で、平成 23 年 9 月～平成 28 年 1 月まで年 2 回～3 回「認知症の方を支える介護者のつどい」として、認知症の方を介護している方同士の語りや、介護の情報交換の場として開催していました。その後、平成 28 年 4 月からは「ほっこり・ほっこりカフェ」として年 3 回認知症カフェを開催しました。これが現在開催している「ほっこりカフェ」の前身となります。

平成 29 年 5 月に札幌市の認証を受け、同年 3 回の開催を行いました。実績も少なく、課題も多くありますが、令和元年から 3 年目を向かえ年 4 回の開催を予定しています。

各町内会には認知症カフェのチラシを配布することで周知をお願いし、町内会長はじめ各役員の方々には、セッティングやウェイター、ウェイトレス、後片付け等全般的にお手伝い頂いています。

認知症カフェで繋いだ町内会との関係性を活かし、地域の方々のニーズの把握に努め、より地域住民の皆様に興味を抱いてもらえるような認知症カフェが開催出来たらと思っています。

## 【施設内 Café「天使のひろば」の運営及び認知症カフェの運営】

### ★取組みについて

特別養護老人ホーム内で「施設内 Café 天使のひろば」を毎週火曜日に営業し、施設利用者、その家族、地域住民に対して、オーガニックメニューを中心とした健康飲料を無料又は低額で提供し、健康情報の発信なども行っています。

また、帯広市認知症カフェの指定（第1号）を受け、認知症に関する様々な情報発信や専門職による相談受付を行っています。

---

### ★取組みを行って

施設内に喫茶スペースが設置されていたが、有効活用されていなかったため職員間で協議し、ボランティアの方の協力もあり、独自のレシピを製作した上、カフェとして開業しました。

その後、認知症カフェとしても登録し、地域の情報交換の場としての役割を担っています。

### 【認知症カフェ「オリーブカフェ」】

#### ★取組みについて

認知症の方や介護をされているご家族、介護予防をされたい方々や地域住民、医療、介護の専門職などが気軽に集い、和やかな雰囲気の中、対話や交流、催しを通じて介護相談や介護予防、情報交換など神愛園の資源を活用し、世代を超えて地域の皆様を支えるコミュニティの場とします。

#### ★取組みを行って

- 関わった人（特養施設長、相談員、ケアマネージャー）（軽費老人ホーム A 型施設長、相談員）（居宅介護相談センター長、ケアマネージャー、ヘルパー）（小規模多機能居宅介護 施設長）
- 認知症の方を介護しているご家族の参加も時々あり、実際に相談をうけることがあった。デイサービスやショートステイのサービス利用につながった方もいた。



## 【地域包括ケアシステム（オレンジカフェ）】

### ★取組みについて

高齢者の寄り合い、認知症カフェ

この会を通して地域の閉じこもりがちの高齢者の方が外に出られ、地域・社会と交流できる支援。

また、困りごと、悩みを多職種にて相談できる環境を提供しています。

---

### ★取組みを行って

閉じこもっていた高齢者が、この会に出席し色々な方との交流から通所介護事業を定期的に自ら利用できるようになった。

### 【社会福祉法人 富門華会 地域公益活動】

#### ★取組みについて

##### 安平町認知症カフェの主体的運営

平成30年度より当会の役職員が安平町民の有志の方々と運営委員会を組織し、会合を重ね認知症カフェを開催する計画でいた矢先に9月6日の胆振東部地震が発生し、当安平町も大きな被害を受け、しばらくの間中断していたが、平成31年度よりカフェを毎月開催することとなり、4月に実施する第1回目のカフェの準備を行っている。認知症である家族の方を抱えているといった方、認知症について関心のある方、学びたいという方、あるいはただ何となくどんなことをやっているのだろうと立ち寄ってみたという方、この活動に興味があって協力したいといった方など、町民などどなたでも気軽に来て頂き、認知症に関するミニ学習会、個別相談コーナー、専門家によるセラピューティックケア（マッサージ）、コーヒーを飲みながら談笑・談話するといった内容で実施することから始める予定です。

---

#### ★取組みを行って

元々は、安平町地域包括支援センターが主催する町民有志の「認知症サポーターの会」の実施する研修会の講師として、当会の認知症高齢者グループホーム管理者がお手伝いを行うなどしていた。最近では、各市町村内にて様々な形態で認知症カフェが行われており、当町においても継続したカフェが実施できないものか、当会が運営委員会を組織し、当会の役員や職員が加わり、実際にカフェを開催し、主体的に関わっていこうと計画している。まずは、カフェ開催を積み重ねていくことを目指し、その先は認知症サポーターとして関心のある町民有志の方々だけで主体的にカフェを運営していくことができるように取組みを始めたいと思います。